



さんぽみち

2025年3月28日

第100号

■発行者
兵庫県立リハビリテーション中央病院
〒651-2181
神戸市西区曙町1070
TEL (078)927-2727
FAX (078)925-9203
<https://www.hwc.or.jp/hospital>

第100号記念特別号

100th Anniversary Special Edition



●院長

リハビリテーションは広義ではケアと同義とされています。当院、兵庫県立リハビリテーション中央病院がリハビリテーションを掲げているからには、けがや病気のために、体と心に傷を負った患者とその方を支える家族に寄り添い、当事者の主体性を軸に求めるゴールに向かって、真のケアを提供できる力量を持つ必要があります。

力量は「力power」・「技 skill」・「リハマインド Rehabilitation minds」からなりますが、さらに究極の力量に達するには運の強さも必要だと思います。自分と患者さん、そして多職種チーム全体の運気を高める絶対的条件は「ポジティブシンキング(想念)」があります。

現在科学技術や医学の進歩は目覚ましく、リハビリテーション領域においても再生医療、ブレインマシンインターフェイス BMI、バーチャルリアリティVR、ロボットRT など様々な先端技術が導入されています。これまでのゴール、予後予測を上回る成果への期待も高まっています。ポジティブ想念は、これらの技術に過度に期待し、それを受けることを熱望することではありません。それらの技術を取り込む状態まで回復させ、維持するのは患者さん自身です。必要な時期に自分自身でしっかりとやるべきことをやって、新規技術が提供されたときに受け入れられる最良の状態にしておく体と心の鍛錬は不可欠です。

「さんぽみち」は本号で100号を迎えます。これまでも患者さんと家族に向かって、当院の取組や新規技術、活動の紹介などをお知らせしてきました。これからも患者さんがご自分の人生を自分らしい生き方でしっかりと生き抜けることができるように、運気を呼び込むポジティブ想念盛りだくさんの「さんぽみち」でポジティブ想念の拡大(広報)を目指して参ります。



●診療部



平成11年5月の創刊号には、発刊にあたって当時病院長の藤田久夫先生が「患者の皆様のご提言やご意見を大切にしながら明るい病院にしていきたいと思っております」と述べられています。

これは、患者さんは治療やリハビリテーションに、職員は仕事に、皆希望をもって生き活きと励むことができる病院を目指したものだと思います。

それから四半世紀、当時には予想もしなかった様々な問題に直面している医療現場ですが、患者さんのニーズがある限り、それに応えるべく当院の診療を前進していきたいと思えます。

●看護部

平成11年に第1号の「さんぽみち」が発行された当時、看護部は168名で構成されていました。この25年間に、社会のニーズに合わせて、病棟や外来、手術室での看護の役割が次々と変わっていきました。3階新病棟ができ、内科病棟は回復期リハビリテーション病棟になり、「子どもの睡眠と発達医療センター」が開設、そして「スポーツ医学診療センター」も新設されました。

今では210名の大きな部門となりました。多くの変化がありましたが、私たちの理念「入院・退院から在宅までの一貫したリハビリテーション看護を」に変わりはありません。機能回復改善の上、住み慣れた家、地域に帰っていただけるよう支援を続けてまいります。

令和7年3月の、電子カルテの更新に伴い、モバイル端末が導入されます。

多職種間での情報共有や業務の効率化が期待できます。生み出された時間でさらに患者さん一人ひとりに向き合ってまいります。



● リハビリ療法部

さんぽみち第1号が発刊された平成11年は、リハビリ療法部のセラピストは42名でしたが、現在は、130名を超える職員が働いています。

リハビリ療法部の基本方針は、1.「温かさと思いやりのある臨床の提供」 2.「先進的かつ安全で質の高いリハビリ治療の供与」 3.「在宅復帰に向け、チームアプローチを基本としたリハビリテーションの提供」です。変化する医療や社会情勢において、地域におけるリハビリテーションの推進など、常に当院の役割を模索しながら歩んできました。

この度、当院は“クオリティと安全性の高い医療の継続的提供”を目指して、新電子カルテシステムを導入します。リハビリ療法部においても、業務の効率化によって、多様なニーズに応え、先駆的で個別性に対応できる臨床力を強化し、より質の高いリハビリテーションをチームで提供できるように取り組んでいきたいと考えています。

そして、県民の皆様安心して選んでいただけるリハビリテーションの専門病院として成長し続けたいと思います。



● 薬剤部

薬剤部は中央病院の沿革とともに仕事内容も多種多様になり、創意工夫しながら業務を行っています。令和になって開設されたスポーツ医学診療センターにおいては、薬剤部も夜間の診察時間に対応し、窓口にて手術前における中止薬の確認を実施しています。

また3月より、新たに「Tiara2」というPTPシート全自動薬剤払出機を導入し、これまでに比べ業務効率の改善やヒューマンエラーの減少が期待されます。さらに、令和7年度より院外処方へ移行するため、病棟業務やチーム医療における薬剤師としての役割を果たす機会を増やしていきたいと思っています。

● 地域医療連携部

昨今、医療技術の高度化・細分化が進む医療現場では、患者さんの状態に合った治療を適切に受けられるような体制づくりが求められています。

地域の医療機関が連携することで、患者さんが適切な医療を受けやすくなります。そうした効率的な医療提供のために地域の病院と連携を行っているのが「地域医療連携室」です。そして入院から退院まで、さらにその先の生活において、院内や地域の関係機関と連携し、医療と保健福祉をつなぐのが「医療福祉相談室」です。

地域医療連携部では、今後も「地域医療連携室」と「医療福祉相談室」が密に連携し、医療や介護・福祉等に関するさまざまな相談や情報を提供し、患者さんが住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせるような支援を目指していきたいと思っています。

● 検査・放射線部 検査科

2019年中国武漢で確認された新型コロナウイルスのパンデミックは記憶に新しいところですが、検査が主役となり臨床検査技師の認知度が高まった出来事となりました。その時に得られた教訓は、この先、起こるかもしれない未知なる感染症のパンデミックにおいて活かしていく必要があります。臨床検査は時代とともに変わり、今後はAIも参入してくると思います。しかし経験に勝るものはないと、検査科一同診療に貢献していきます。



● 栄養管理部

健康の維持や病気の予防を目的とした栄養指導がますます重要になります。特に、糖尿病や高血圧、肥満などの生活習慣病の予防において、栄養が大きな役割を果たすことが認識されています。そのためリハビリテーションを有効に行うため、患者1人ひとりの健康状態やライフスタイルに応じた栄養管理が求められています。

栄養管理の未来はAIを使って個人の食事の傾向や健康データを分析し、最適な栄養素の摂取量を提案するシステムが発案されていると思います。日々勉強し、テクノロジーの進化に乗り遅れないようにしたいです。

放射線科

「放射線検査」と聞くだけで、不安を感じる方もいらっしゃるかもしれません。検査には大きく圧迫感のある装置、騒音の出る機械などがあり、緊張されることもあるでしょう。

私たちは、検査の時間を少しでもリラックスして過ごしていただけるよう、安心できる対応を心がけるとともに、環境の整備や技術の向上に努めてまいります。レントゲン装置の更新に伴い、壁紙も可愛らしく温かみのあるデザインに変更いたしました。

● 総務部

病院にとって総務部の役割は「縁の下の力持ち」です。医師、看護師、セラピストをはじめ病院で働くすべての職員が、担当業務を滞りなく行えるようにサポートします。

さんぽみち第1号から四半世紀が過ぎ、様々なことが変わってきましたが、時代の流れとともに変わる患者さんのニーズにも柔軟に対応できるよう、総務部も柔軟性と力をつけて患者さんへ質の高い医療やリハビリテーションが提供できる病院の一員でありたいと考えています。

